

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

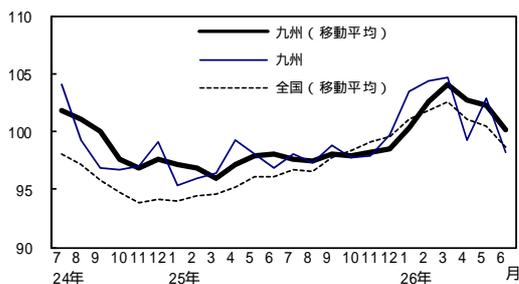
	前回(平成26年5月)	今回(平成26年8月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある
鉱工業生産	緩やかに増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる
住宅建設	増加	減少

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

4～6月期には、輸送機械は、消費税増税前の駆け込み需要の反動及び、生産車種の競争力低下等から減少した。電子部品・デバイス、スマートフォンや携帯電話用途の半導体集積回路(CCD)等で増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体装置の受注減少等により低下した。食料品は、ビールや焼酎等で、消費税増税前の駆け込み需要の反動減等がみられたことから減少した。化学・石油石炭製品は、パラキシレン等の減少により低下となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	24.5	17.7	10.4	12.1	5.3	8.5
電子部品・デバイス	12.3	0.1	1.5	3.0	7.1	1.6
はん用・生産用・業務用機械	11.2	8.5	0.8	0.6	5.0	5.0
食料品	9.6	0.8	10.0	13.0	8.5	1.1
化学・石油石炭製品	8.3	0.2	2.4	5.2	8.4	10.7
鉱工業	100.0	5.7	3.8	5.1	3.6	4.6

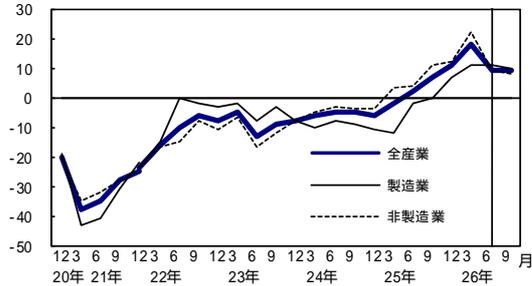
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

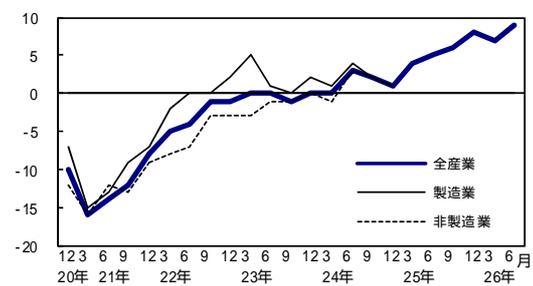
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



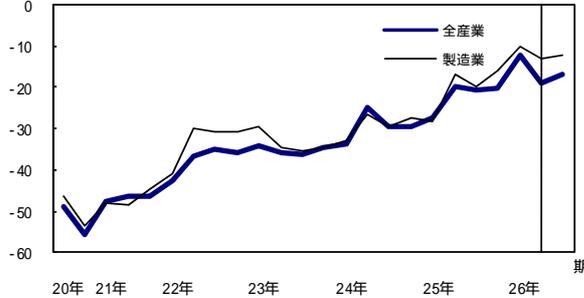
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から  
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



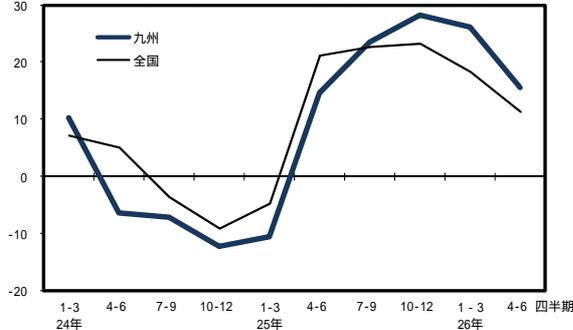
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「5月以降、引き合いや新規契約が大きく減少しており、7月に入っても同じ状況が続いている(鉄鋼業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度概
全産業	16.8 ( 4.8)	12.2 (0.1)
製造業	5.0 ( 6.1)	28.1 (7.0)
非製造業	27.0 ( 4.4)	6.6 ( 2.5)

(備考) 1.( )は前回(3月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比11.8%減、5月は同2.0%増、6月は同0.1%増となった。

大型小売店販売額

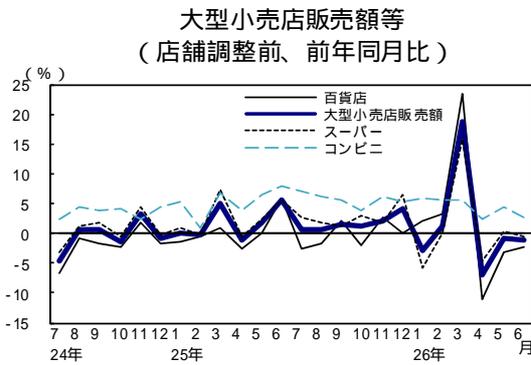
百貨店は、4月、5月は、主力の衣料品や高額商品等を中心に消費税増税前の駆け込み需要の反動がみられたこと等から、前年を下回った。6月は、天候不順や消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減等により、前年を下回った。

スーパーは、惣菜や精肉など主力である食料品は堅調に推移したものの、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動に加え、天候不順等の影響により前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、46.5となり前月より2.1ポイント上昇した。

「消費税増税の影響で、特に食料品以外の動きが悪い。消費税増税だけでなく、周辺の競争環境の変化や、梅雨明けが昨年より2週間近く遅れたことの影響も大きい(その他小売[ショッピングセンター])」など、「変わらない」とする回答が増加した。



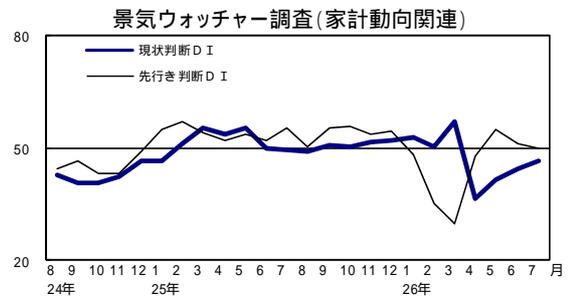
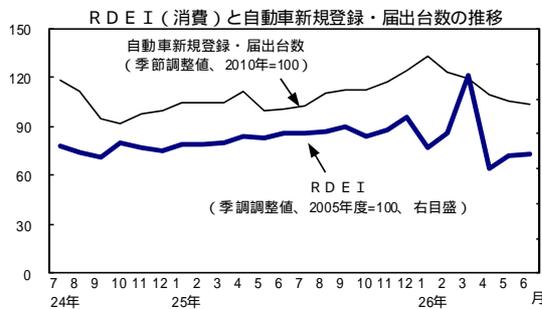
	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	5.4	11.8	2.0	0.1
大型小売店(*2)	2.9	6.8	0.8	1.1
百貨店(*2)	5.4	11.0	3.2	2.2
スーパー(*2)	1.6	4.6	0.4	0.6
コンビニ(*2)	3.2	2.4	4.4	2.7
乗用車(*3)	2.1	2.1	4.3	3.9
(季節調整値)(*3)	15.3	8.5	3.5	1.5

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

